（第3種郵便物認可）　'07 8/9　日刊工業新聞

ア

本社工場移転拡張　材料高対応、効率配送

【松山】アイネット（愛媛県四国中央市、服部豊正社長、0896・56・3310）は11月をめどに、四国中央市内に本社工場を移転拡張する。同社に出資している服部製紙（同、服部豊正社長）など地元中小製紙会社9社向けの再生トイレットペーパー用紙管の増産と、共同配送の効率化が狙い。材料費が高騰する中、紙管製造の内製化率を高めコストを削減、価格競争力をつける。

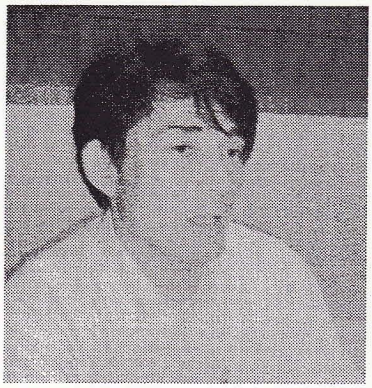
新工場は鉄骨一部2階建て。倉庫、事務所、紙管工場で構成。貸倉庫も設ける。現工場の2・5倍の広さで、敷地面積は約9500平方㍍。紙管製造機を1台増設し計3台で対応する。同機1台の生産能力は月間1700万―同1800万本。これまで2台で9社の紙管生産の70―75%をカバーしていたが、今後は100%対応できる。一方共同配送事業についても、西日本中心に9社の再生トイレットペーパーの共同物流を手掛けているが、新工場建設で一層の配送効率化が図れるという。

アイネットは90年に古紙100%再生パルプを製造する愛媛パルプ協同組合（伊藤俊次理事長）の関連会社として組合員らの共同物流事業を目的に設立。

組合員は再生パルプを原料に再生トイレットペーパーを生産しアイネットや大手製紙会社が再生トイレットペーパーに興味を示す中、さらに競争力アップを図るため新工場建設に着手した。総投資額は約5億円を見込んでいる。

モノづくり新世代　事業承継者に聞く　□16□

9項目の行動基準策定



鈴木接点工業社長
鈴木　良美さん

1924年創業の鈴木接点工業は、マイクロモーター用ワイヤブラシなどの電気接点やスポット溶接で高い技術力を誇る。03年に4代目の社長に就任した鈴木良美さんは、伝統の恩恵を受ける一方で経営革新にも手腕を振るう。（池田勝敏）

―入社時に会社を継ぐ意志はありましたか。

「前社長である義父が経営の若返りを考えていて将来の後継者として白羽の矢が立った。当時自営業をしていたが、義父の強い薦めに押されて入社を決意した。当然継ぐという自覚があった」

―入社から社長就任までの経緯は。

「入社後は品質管理部門で品質向上・改善業務に携わった。後に社内の主要技術を習得し工場長になった。東京都世田谷区から神奈川県藤沢市に工場を移転する際に資金繰りなど経営に近い仕事に携わった。この後に社長に就任し本格的に経営改革を行うに至った」

―経営改革はどのように取り組みましたか。

「経営コンサルタントに経営改革計画書の作り方など助言を受けた。PDCA（プラン・ドウ・チェック・アクト）サイクルを取り入れて1年である程度の結果を出した。これとは別に社員と説いた。お客様本位をうたったものなど9項目から成る。これだけはなにがなんでも私が社長である限り貫き通すと宣言した。毎朝社内で10回唱和している。社員に定着してきたようで訪問者に雰囲気がいい会社ですねとよく言われる。このほか未来日記と題した社内目標を掲げている。09年4月3日に予定する新工場の落成式の様子を詩的につづったものだ。実現が決まっていることに向けて社員一丸となって奮起している」

―創業以来83年間の伝統をどのように考えていますか。

「現在の取引先のほとんどがこれまで長くお付き合いさせて頂いたお客さんだ。伝統によって培われた鈴木接点工業という看板とモノづくりのインフラを今後も有効に活用していく」

……

▽業種＝電気接点部品などの設計・製造・販売▽創業＝24年（大13）▽売上高＝18億円（07年3月期）▽従業員＝80人▽所在地＝東京都港区西新橋1の19の6▽電話＝03・3503・5201

（木曜日に掲載）

私が持つ常識を共通化するべく行動基準を策定した。その時に全社員を集めて『そう生きる。』と題した行動基準の真意を

……

すずき・よしみ　64年生まれ。84年科学技術学園高校機械科通信課程卒業。日産自動車、大道技研で技術者として活躍後、自営業を営む。95年同社入社。02年取締役、03年社長就任。

販売加盟店、全国に拡充

国電防災が無光触媒の溶液

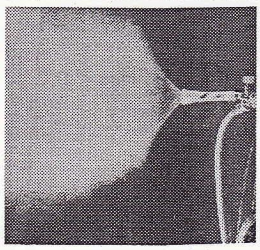
国電防災（滋賀県草津市、本田国松社長、077・561・8948）は、無光触媒の販売加盟店を1年内に、現在の8店から各都道府県3店ずつに拡充する。これにより08年3月期は1億円の年商を目指す。

滋賀県を拠点に関東は埼玉県、東海は静岡県というように順次、加盟店を設けてきた。これを一気に増やし全国販売網を敷くことにした。加盟店ごとに5店の施工特約店網も整備する。

同社の無光触媒「オキシアップ」はリン酸チタニウムを軸にした溶液。紫外線など光がなくても触媒反応をし抗菌、消臭、防汚、防カビの機能をもつ。施工は専用のスプレーガンで吹き付け、0・05㍉―0・5㍉（マイクロは100万分の1）厚の多孔体膜を形成する。

大阪市立工業研究所が共同開発した。

3・6765・0099）は10日に、工場やイベント会場向けに大気冷却用水噴霧機「水道直結ウォーターミスト SP G―D1＝写真」を発売する。独自開発のノズル



リサイクルすることで環境負荷軽減を狙う。（東京都瑞穂町、岡本日吉社長、042・556・1277）

テラス

メモ歴40年

▽…「道を歩いていても、自社の製品のことばかり考えてしまう」というのは京葉システム技研社長（千葉市中央区）の片岡義章さん。ITを活用した防犯システムなどの開発販売を営む。

▽…製品開発に欠かせないのがメモの存在。「アイデアが思いついたらすぐ書けるように、メモ帳を肌身離さず持っている」ほど。メモを取り続けて約40年になるとか。

▽…毎晩のウオーキング時はポケットに、就寝時には枕元に紙とペンを用意する徹底ぶり。「考えた末に寝床やトイレで生まれた製品もあるよ」と一朝一夕では新製品は、生まれないとでも言いたげ。（千葉）

片岡さん